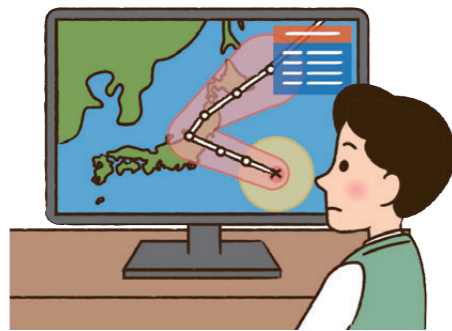


自主避難（自己判断による避難）

いつもと違う天気や川の様子など、危険な状況を感じたときは、早めに安全な場所（親戚や知人宅など）へ自主的に避難を開始してください。

例えばこんなとき…

- 大型の台風が接近、大雨が予想
- 夜に雨が降り続く
- 川の様子がいつもと違う



避難時の服装について

ヘルメットや防災頭巾などで頭を保護

荷物は少なく、非常持ち出し品は両手が空くリュックがオススメ

軍手や革手袋などで手を保護

ひもで締められる底の厚い運動靴など履き慣れたものが良い
※長靴は、水が入ると足を取られる危険性があるので注意

長袖、長ズボンで

避難情報に基づく避難

災害による被害が発生するおそれがあり、住民への危険が迫ったときには、市は状況に応じた避難情報を発令します。避難情報が発令されたら、速やかに避難を始めてください。

警戒レベル3 高齢者等避難	<p>❗ 災害のおそれあり</p> <p>危険な場所から高齢者等は避難</p>
警戒レベル4 避難指示	<p>❗ 災害のおそれ高い</p> <p>危険な場所から全員避難</p>
~~~~~警戒レベル4までに必ず避難！~~~~~	
警戒レベル5 緊急安全確保	<p>❗ <b>災害発生または切迫</b></p> <p>命の危険 直ちに安全確保！</p>

## 立ち退き避難（水平避難）

とにかく早めに、できるだけ遠くへ



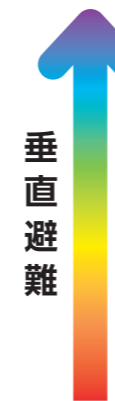
### 水平避難

立ち退き避難とは、洪水や土砂災害から身を守るために、災害リスクのある場所から、安全な場所に移動することです。

- 市の指定避難所などに避難しましょう。
- 安全な場所に住む親戚・知人宅、ホテル・旅館などに避難しましょう。



## 屋内安全確保（垂直避難）



垂直避難

屋内安全確保とは、今いる建物内で安全を確保できるときに、その場に留まることです。ハザードマップで浸水深、家屋倒壊等氾濫想定区域、土砂災害警戒区域等を確認し、身の安全を確保できるか確認しましょう。

- 自宅・施設等の安全な上階へ移動しましょう。
- 孤立に備えて備蓄等を準備しましょう。
- ※ 土砂災害の危険がある地域では立ち退き避難が原則です。



## 緊急安全確保

既に周辺で災害が発生している場合で、立ち退き避難が困難となったときなどは、いのちを守る最善の行動をとります。

- 自宅の少しでも高い場所へ移動しましょう。
- 崖から離れた部屋に移動しましょう。
- 近隣の少しでも高い（頑丈な）建物に移動しましょう。
- 命の危険性を感じたら119番通報しましょう。

